

第3号議案

2023(令和5)年度 事業計画及び予算

1. 2023 年度 事業

ならびに活動計画

2. 2023 年度 事業予算

1. 2023 年度 事業ならびに活動計画

2023 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

定款第 3 条（目的）

この法人は、主として産業に関する安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び學術の発展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

1. 事業活動方針

2022 年度、理事会の傘下に常置委員会に並列する形で設置した新たな委員会（定款細則 7.1 条「その他委員会」）、運営会議、国際交流WG（旧国際交流部会を発展的に再編）、広報WGの3つの「その他委員会」を駆使して、学会創設 60 周年(2017 年)を機に整理した6つの要点（(1)教育、(2)継続的ビジョンの見直し&設定（システム）、(3)研究会企画、(4)防災と安全工学、(5)化学プロセス安全、(6)学会の社会貢献）の構想の具体化と実現に向かって邁進する。併せて来る 70 周年(2027 年)を控え(後半の 5 年間に突入)、継続した学会構想の練り直し検討・作業に向け、下地創りを進めてゆく。

「具体化」「実現」の具体的な形態の一つとして、「研究会」活動が挙げられるが、この活性化を、更に支援し支えてゆく。

他の一つの形態として「安全工学誌」や学会のホームページがある。広く世界に訴える視点から、英文での投稿・寄稿を奨励し、紙面や画面の改善に努めてゆく。

『(1)教育』については、地域企業支援セミナーの講師派遣活動の範疇で進め、同時に、学会内での議論をさらに深めてゆく。

『(2)継続的（学会）ビジョンの見直しと設定（システム）』について、若手学会員を核とした安全工学会将来構想委員会の第 55 回研究発表会（鳥取県米子市）での PD「安全の未来、安全工学の未来」のような単発的な活動に加え、常に学会の構想が語られ議論される定常的な活動の場、人脈つくりの場などの整備に尽力してゆく。

『(3)研究会・研究部会の企画』、前述のように昨年は、既存の産業防災研究会、医療安全研究会に加え、新たに、静電気災害防止研究会及び地域活性研究会を立ち上げた。いくつかの研究会のアイデア・企画も寄せられており、その実現に向けて尽力する。

『(4)防災と安全工学』について、産業防災研究会が、CCPS の 20 の element に付加する形で、NATECH とパンデミック下における化学プラントの安全マネジメントのフレームワークをまとめている。学会事務局にも実際に、自然災害に対する設備対応の考え方などについての討議の場を求める声が寄せられている。関東大震災から 100 年を迎える本年、関連した何らかの動きを求める声も聞こえており、応える方法について考えてゆく。

『(5)化学プロセス安全』については、2017 年度の CCPS の GSPS の開催を機に、2018 年度／岡山、2019 年度／四日市、2020 及び 2021 年度／Web、2022 年度／現地対面および Web のハイブリッド／研究発表会と合同開催（鳥取県米子市）してきた。特に昨年は、CCPS (Center for Chemical Process Safety) の CEO である Mr. Shakeel Kadri 氏の講演も交え (Web 講演)、今年、2023 年の 7th GSPS (Global Summit on Process Safety) hosted by CCPS & JSSE 開催を控え、準備を整えてきた。

いよいよ今年は、兵庫県姫路市のアクリエ姫路で、7th GSPS hosted by CCPS & JSSE

を開催する（11月28日(火)～29日(水)）。学会の大きな柱であるプロセス安全にとって、大きな動機付けとなり、活動の原動力の一つとなることを目指す。

『(6)学会収支（社会貢献の指標）』については、消費税10%化を踏まえて、さらにまた、ウクライナ問題やコロナ禍の影響などからの物価の急激な上昇を受けながら、さらに学会の付加価値の在り方を加味して検討する方向で、学会費の適正化を検討している。学会の将来構想を具体的に詰め、目標とする成果を会員の方々に明確に説明して、充分なご理解を頂ける額を示す方向で引き続き検討を進めている。

コロナ禍から学んだ、インターネット会議・講演会の有効性が認識され（参加者の拘束時間の短縮、出張経費の削減など）新たな情報交換手段として実効を重ねている。さらに待望される現地対面開催との、ハイブリッド効果が注目されている（本会では一昨年PSS 2021で試行／発信側からの一方通行型、2022年度での総会、安全工学セミナー、研究発表会などのハイブリッド実施）。会員への感染の影響を受けることなく、学会の本来の活動を再開し、加えてハイブリッド開催による一歩進んだ学会サービスに努める。

2021年度は、コロナ禍の下、その影響を防護することを前提に、Webによる遠隔会議・講演会などを駆使し、学会本来の活動の再開、再構築を模索し、開催を見送っていた「安全工学実験講座」、「地域セミナー（千葉山武地区）」を、再開した。

2022年度は、さらに「安全教育セミナー」をハイブリッド開催した。また、セミナー・講演会のテキストのカラー印刷化などを進めた。

2023年度は、いまだ開催に至っていない「安全管理の最新動向講習会」及び「災害事例研究会」を、必要によりハイブリッド開催も含めて、再開してゆく。

また2018年6月に安全工学会から分離独立した保安力向上センターとの連携協力について、今後も引き続き、実質的、且つ具体的な相乗効果を目指して推進してゆく。

併せて周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客を図り、会議やセミナーのハイブリッド開催についても、連携を継続して強化してゆく。学会の将来構想に基づいた戦略的な連携を引き続き模索する。

安全工学会誌の論文発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしている。2023年度も、研究会などの成果を積極的に発信する。また、安全工学誌は「安全工学」を軸に、非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえ、この特徴を大切に育てる（英文原稿の奨励など）。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全及び安全教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力する。研究会活動の活性化（医療安全研究会、産業防災研究会、静電気災害防止研究会、地域活性研究会など）、再構築に努力する（特に学術委員会から産み出す研究会活動の模索に注力する）。

② 安全工学シンポジウム 2023「VUCAの時代の安全工学」

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加（OS：「安全工学分野におけるリスクリング教育」）。

開催月日：2023年6月22日（木）～6月23日（金）

開催場所：日本学術会議

参加予定者：550名

主催：日本学術会議

幹事学会：（一社）日本人間工学会

共催：安全工学会ほか34学協会（予定）

③ 安全工学研究発表会（第56回）

安全工学会の研究成果の発表会を開催する。同時に安全工学に係る情報交流の場、学術及び技術の切磋琢磨の場を、産官学、また学界や各協会を横串として貫く形で提供する。

開催月日：2023年11月30日（木）～12月1日（金）

開催場所：アクリエ姫路（兵庫県姫路市）

（ハイブリッド開催、7th GSPS hosted by CCPS & JSSE と連携開催）

参加予定者：150名

④ 7th Global Summit on Process Safety (GSPS) hosted by CCPS & JSSE

2017年に開催した4th GSPSを機に、5回のプロセス安全シンポジウムを国内で重ね、プロセス安全の構築に向け努めてきた。今回、CCPSから7th GSPSの共催の申し出を受け、2回目のGSPSの共催を企画し、開催に向けて尽力してゆく。第56回研究発表会の前に同じ場所で開催し、相互交流を期待する。

開催月日：2023年11月28日（火）～29日（水）

開催場所：アクリエ姫路（兵庫県姫路市）

（ハイブリッド開催、第56回安全工学研究発表会と連携開催）

参加予定者：350名

⑤ 2023 プロセス安全シンポジウム（2023 PSS）

今年は第56回安全工学研究発表会と7th GSPS hosted by CCPS & JSSEとの連携開催を鑑みて、開催を1年繰り延べする。

開催月日：1年繰り延べ（未定）

開催場所：同上

参加予定者：200名

⑥ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 3-4回

安全工学研究発表実行委員会 1-2回

医療安全研究会 6回

産業防災研究会 4-6回（必要に応じ短時間、複数回も）

静電気災害防止研究会 1-2回

地域活性研究会 1-2回

新規研究会の立ち上げ 随時

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

①発行 印刷物の発行 年 6 回／480 ページ前後

②電子化推進

J-stage の公開 2016 年 6 月発行分～実施済み、逐次更新

J-stage 公開の推進（過去の掲載については作業終了）

③英文誌の検討

J-stage を介した派生誌としての英文誌の検討を進めたが、当面は現行の枠で英文原稿を増やす方向（英文原稿の提出を奨励する）に尽力する。

(2) 講習会・セミナー

①第 45 回安全工学セミナー

物質危険性講座 2023 年 08 月～09 月で調整中

危険現象講座 2023 年 10 月で調整中

プラント安全講座 2023 年 11 月で調整中

安全マネジメント講座 2024 年 01 月 下旬で調整中

実施予定場所 コロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する

参加募集人員 各回 100 人以内（予定）

②第 21、22 回安全工学地域セミナー

開催月日

実施予定場所 実施検討中

参加募集人員 凡そ 30 人

③第 34 回安全管理の最新動向講習会

開催月日 2023 年～10 月で検討中

実施予定場所 コロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する

参加募集人員 100 人以内

④第 19 回安全工学実験講座

開催月日 2023 年 中、検討中

実施予定場所 日本カーリット（株）

参加募集人員 10 人（コロナ禍を睨み平年の 1/2 に縮小）

⑤災害事例研究会

開催月日 2023 年、検討中

実施予定場所 コロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する

参加予定人員 各回 100 人以内

⑥地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣 2～4 件程度

⑦安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催 月日：2024 年 2 月予定

開催 場所：三井化学株式会社 茂原分工場

参加予定者：10 人（コロナ禍を睨み平年の 1/2 に縮小）

⑧普及啓発事業管理

- ・対象委員会・研究会等
- 編集委員会 12回
- 普及委員会 4回
- ・会誌への広告募集管理 逐次

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

法人事務所にて図書販売等を実施する。安全工学便覧第4版の販促（継続）。

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する（適宜）。

2. 3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員へのPRを推進する（継続）。

2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与 安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。

対象：安全工学論文賞(2件以内)、玉置功労賞(2名以内)、北川学術賞(2名以内)、優秀・学生講演賞(2名以内／研究発表会で決定・表彰)、学術技術奨励賞(2名以内)。

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合) に参加（継続）、APSS、CCPS、ICSI などの情報交換を継続、発展させる（継続）。

①諸会費

日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

②安全工学シンポジウム 2023 他

③防災学術連携体、日本化学連合(オブザーバー)への参加を継続し、接点を模索する。

④化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、(独)情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

2. 6 管理業務

①総会 1回開催

開催月日：2023年5月24日(水)

開催場所：タワーホール船堀 大ホール(都営新宿線 船堀駅前)

②理事会 4回開催(コロナ禍に配慮してWebexのインターネット開催など)

開催月日：2023年5月17日(水)、7月12日(水)、
2023年11月、2024年3月(調整中)

③評議員会 1回開催

開催月日：2024年5月調整中

④監事会 1回開催

開催月日：2023年4月21日（金）

⑤委員会

総務委員会 必要に応じて開催

企画委員会 4回開催

アドバイザリーボード 1回開催（コロナ禍で3年間開催を見合わせているが再構築中）

⑥現場研修会 2回開催

開催日：2023年4～9月、2024年3月予定

見学先：調整中

参加予定人員：安全工学会の会員 各回20～30名

その他未定

以上